



はーとふる エッセイ

富山市長 藤井裕久

No.38 未来へ伝えたいものは何ですか？

立川志の輔師匠の富山弁落語は、いつも腹がよじれるくらい笑える。志の輔師匠の経験、話術の巧みさと洗練された内容はもちろんのこと、高座で繰り広げられる伝統的話芸の落語とコテコテの富山弁とのミスマッチが実に滑稽なのである。他にも柳家さん生師匠や三遊亭良楽師匠、桂米福師匠らの富山弁を織り交ぜた落語も実に面白く温かい気持ちになる。ご本人たちに確認したことはないが、富山弁は県外の人には理解不能なものが多く、たぶん富山弁落語は富山県人限定であると思う。いずれにしろ古典落語を究めた玄人たちが、あえて富山弁を織り交ぜた創作落語にこだわるのは、生まれ育った故郷への愛情と薄れつつある方言を大切に伝えたいという気持ちの表れだろう。

さて、富山弁といえば枚挙に遑がないが、「きときと(いきいき)」「まいどはや(こんにちは)」「うしなかず(紛失する)」「きのどくな(ありがとう)」「だいてやる(おごってやる)」「あんま(長男)」「おっちゃん・おっさん・おっじゃ(次男)」「だら(ばか)」「つかえん(かまわない)」「うい(つらい)」などが自分の中では代表的である。しゃべり言葉にすると、「よんべは あんまに だいてもらって きのどくだったちゃ。(昨夜はお兄さんにおごってもらってありがたかった)」などとなるが、今の子どもたちには理解不可能だろう。富山弁はイントネーションも含めて、呉東地域と呉西地域、富山・新川・高岡・砺波の各圏域、さらには旧市町村ごとにも地域特有のものがあ、時代と共に変化してゆくものだ

が、ぜひ未来へ伝えたい地域特有の宝物だと思う。

話は変わるが、自分が子どもの頃の卒業式の定番ソングであった「蛍の光」や「揚げば尊し」などは、時代背景などもあり今ではほとんど歌われていない。かつて文部省唱歌と言われた「ふるさと」や「もみじ」などは、今も音楽の教科書に載っており歌い継がれているのは嬉しい限りだが、「汽車」や「村の鍛冶屋」などは歌われなくなったようである。確かに今は蒸気をあげる汽車は走っていないし、近所に必ず一軒はあった鍛冶屋も無くなった。時代の流れとは言え、日本人の心である唱歌は、いつまでも大切に歌い継がれてほしいと思うのである。

富山で生まれ育った自分としては、雄大な自然や美しい風景、豊かな海の幸・野の幸・山の幸、おいしい水や澄んだ空気、芸術や文化、お祭り、温かい地域の繋がりが、住民自治の力、思いやりの心等々、未来へ伝えたいものがたくさんある。

さて、あなたにとって「未来に伝えたいもの」とは何であろうか？ そんなことに心静かに思いを馳せてみることも人生を豊かにする大切な時間だと思うのである。

方言も未来へ伝えたいものだちゃ！



▲里ノ助とペロリッチ (©TOYAMACITY/DLE)

今月の 広報クイズ

市は熱中症対策のため、「クーリングシエルター」と「〇〇〇とやま」を開設します。

〇に入る文字は？ 答「〇〇〇とやま」

富山市公式LINEかはがきで回答してください(1人1通)。

LINEの場合

右の二次元コードから友だち追加をして、メニューから回答。



はがきの場合

答と郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号と「広報クイズ」と書いて、広報課(〒930-8510 新桜町7-38)へ。

締切日▶7月17日(必着) 賞品▶500円分の図書カード
当選発表▶賞品の発送で代えさせていただきます(抽選で5人)。

前月の答え 2024年 前月の応募総数 487件(正解数481件)



とやま情報局

今月の
放送日 7月28日(日)11:45~

放送局 KNB北日本放送(1ch)

テーマ 「富山ガラス大賞展2024」

ガラス美術館で3年に1度の国際公募展「富山ガラス大賞展」を開催。作家が作品に込めた思いや作品の見どころなどを紹介します。

HP市ホームページ(No.1002571)